

日本地理全誌
飯島半十郎輯

特31
455
函架五冊

第七百四十六號
共五冊

022997-001-7

特31-455

日本地理全誌 第1編 畿内・東海道之部

飯島 半十郎/編

M9

ADB-0956



飯島半十郎輯
宮本三平圖
那珂通高校正
狩野良信畫

日本地理全誌

畿内東海道之部

明治九年六月
二書堂發兌
十三日版權免許

東國館



東國館



文通
前書

日本地理全誌序
 蓋觀世中富家翁子必以其田地房屋山林畜牧
 及其五項製造物品出賣獲利一切產業盡登之
 於簿以備考察以貽子孫亦為子孫者必謹受
 其簿班班守藏期勿遺失然亦人事不常貧富時
 變者何也蓋人之致富決非偶然必有所以致之
 之道焉彼其存心忠厚處眾慈恕治家勤儉教子
 禮義於以能合天心亦荷神眷宜其致富也夫天

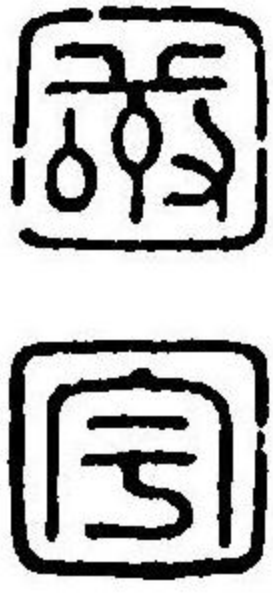
以富付託於人。亦付託非其人。則轉而使之。亦莫
足怪焉。是以祖宗累致。而致鉅萬者。其子孫失所
以守之之道。則一旦傾家蕩產。徒守其空簿。而泣
於路歧者。比比而然。可勝慨哉。嗚乎。知家則知國
矣。日本地理全誌者。其亦猶曰。本現有土田財物
產業之簿歟。曰。本國中所墾之田地。所建之房屋。
所闢之山林。所養之畜牧。所製之器物。何一非我
邦人民勞力之成效。何一非我邦人民所有之產。

業。其存心處眾。治家教子。雖或有不。出於忠厚慈
恕。勤儉禮義。而蓋其全無有所。以合天心。而荷神
眷者乎。由是觀之。則今日我輩所保之產業者。雖
不為全非我輩之力。而所享之富有者。多是前人
之賜也。蓋我輩今日之職。不當務循守。所以致富
之道。思所以合天心。而荷神眷。多受產業之付託。
以博行善事。以利濟同類。惠施後人。而已矣。數十
年之後。而地理誌所載之土田財物。產業果能增

殖于今日。則今日之人民。實與有力焉。頃飯島半十郎君。著茲書。刻成乞余序。余讀之有所感于中。因書之以弁其首。

明治九年八月二十三日

東京 敬宇中邨正直撰



雪江關思敬書



日本地理全誌

凡例

一 地理トハ地ノ理ナリ地理ノ學ニ其法三アリ
一ハ地形山川海島等ナリ二ハ都府郡縣城市等ナリ三ハ方角里數及戸口風俗等ナリ此書記載スル所モ亦此三者ヲ以テスト雖學識固淺陋ニシテ世ニ引據ノ書乏シケレハ疎謬無キコト能ハス讀者幸ニコレヲ恕セヨ
一 書中ニ載スル所ノ物名及官名ハ皆填スルニ

俗字ヲ以テス人ノ一讀シテ解シヤスカラン
コトヲ欲スレハナリ

一 各國神社佛閣夥シクシテ其由来傳記等々ク
ハ無稽ノ説ニ屬ス故ニ特ニ官幣國幣ノ神社
或ハ最著名ナル者ノミヲ舉ケテ土地ノ條下
ニ附記ス

一 此書ヲ編ノ間ニ當リテ縣名改マルコト屢ニ
シテ未其底止スル所ヲ知ラス因リテ改正ヲ
全部刺成ノ後ニ竣ントス

一 我國ノ地圖ハ伊能氏ノ實測圖ヲ最トス惜ム

ラクハ獨海岸ニ止マリテ未内地ニ及ハス此
頃友人宮本三平一全圖ヲ製ス海岸ハ伊能氏
ニ據リ内地ハ諸縣ノ實測圖ニ基ク頗詳細ナ
リト謂フヘシ故ニ今一國毎ニ其圖ヲ割キテ
コレヲ載ス但經度ハ東京ヲ以テ零度トス
一 圖ハ真ヲ觀ルニ在リ故ニ各國名勝ノ地皆捉
影ヲ以テセンコトヲ期ス但各地ノ多キ遠ニ
蒐集スルコト能ハス因リテ間コレヲ名所圖
繪等ヨリ採レル者アリ

日本地理全誌總目錄

第一編

卷之一

全國總論

邦制

五畿八道總論

東海道

武藏誌

卷之二

安房誌

上總誌

下總誌

常陸誌

相模誌

伊豆誌

甲斐誌

卷之三

駿河誌

遠江誌

三河誌

尾張誌

志摩誌

伊勢誌

伊賀誌

卷之四

山城誌

大和誌

卷之五

河内誌

和泉誌

攝津誌

第二編

卷之一

東山道

近江誌

美濃誌

飛驒誌

信濃誌

卷之二

上野誌

下野誌

磐城誌

岩代誌

卷之三

陸前誌

陸中誌

陸奥誌

羽前誌

羽後誌

卷之四

北陸道

若狹誌

越前誌

加賀誌

卷之五

能登誌

越中誌

越後誌

佐渡誌

第三編

卷之一

山陰道

丹波誌

丹後誌

但馬誌

因幡誌

卷之二

伯耆誌

出雲誌

石見誌

隱岐誌

卷之三

山陽道

播磨誌

美作誌

備前誌

卷之四

備中誌

備後誌

安藝誌

卷之五

周防誌

長門誌

第四編

卷之一

南海道

紀伊誌

淡路誌

阿波誌

讚岐誌

伊豫誌

土佐誌

卷之二

西海道

筑前誌

筑後誌

豊前誌

豊後誌

肥前誌

卷之三

肥後誌

日向誌

大隅誌

薩摩誌

壹岐誌

對馬誌

卷之四

北海道

渡島誌

後志誌

石狩誌

天鹽誌

北見誌

膽振誌

日高誌

十勝誌

卷之五

釧路誌

根室誌

千島誌

樺太誌

附 琉球誌

全部二十卷終

日本地理全誌卷之一

全國總論

邦制

人種

言語文字

心性教法

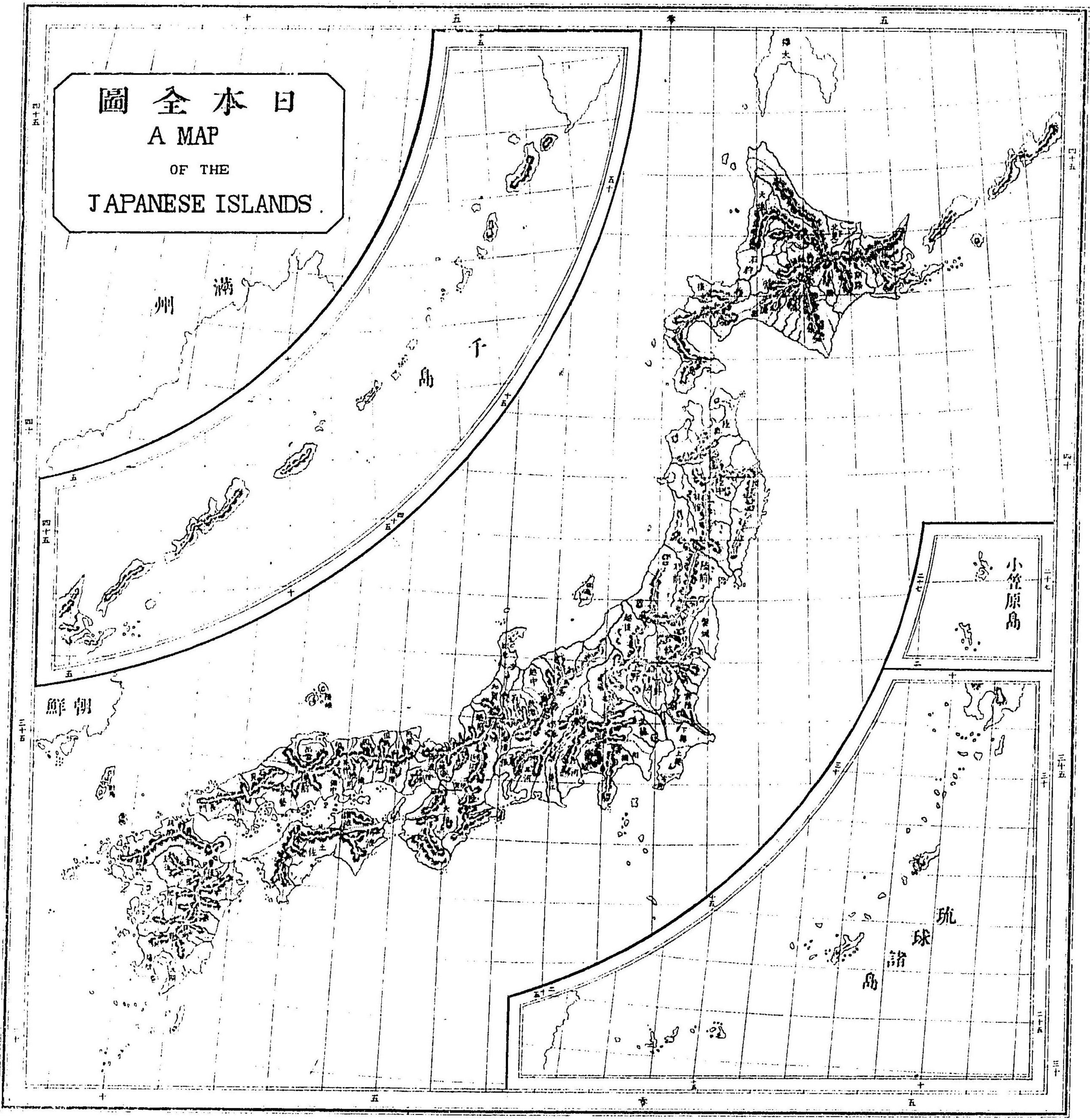
風俗

政體

歷史

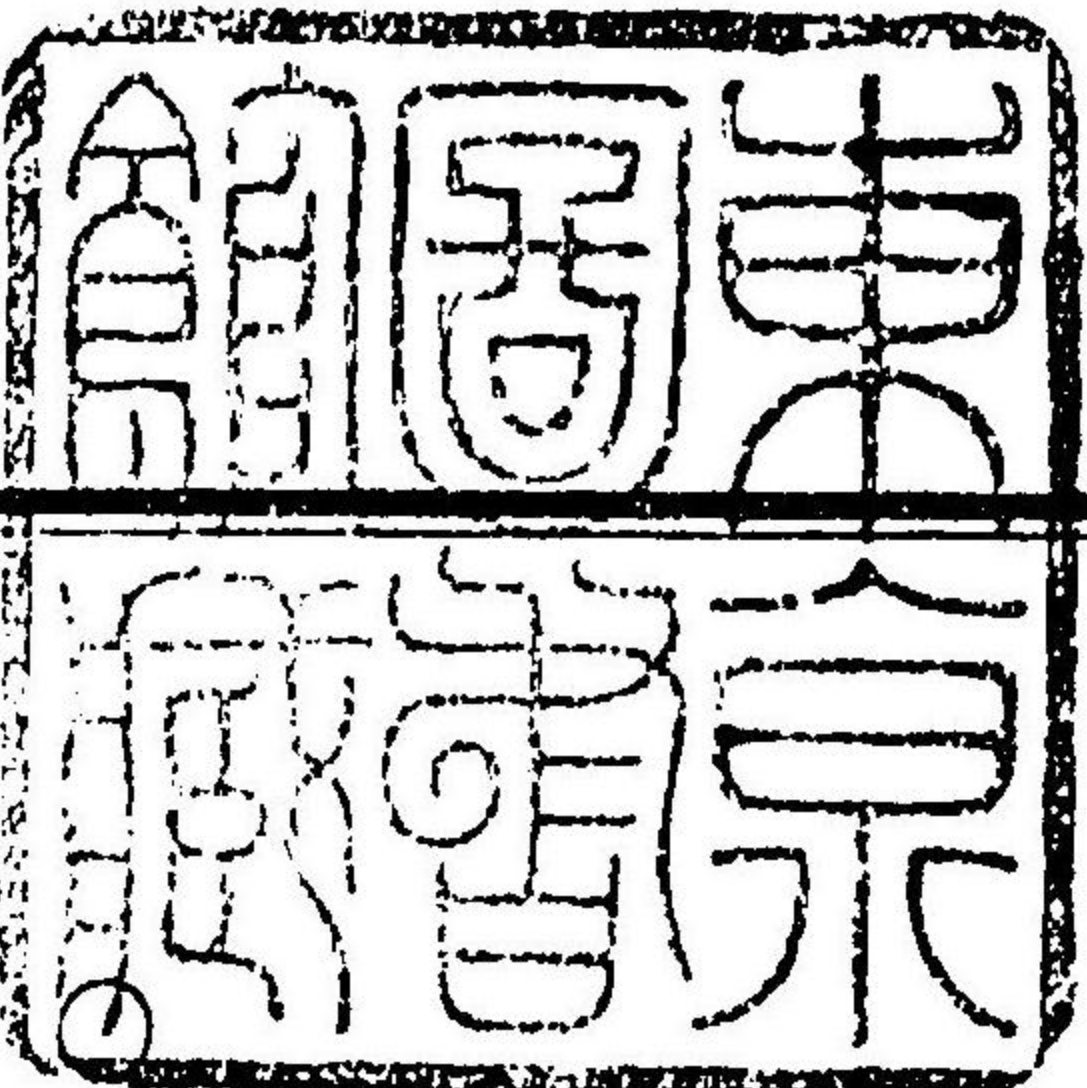
五畿八道總論
武藏誌

圖全本日
A MAP
OF THE
JAPANESE ISLANDS.



五畿八道總論

武藏誌



日本地理全誌卷之一

全國總論

我日本ハ地球ノ東半球太平洋ノ西北隅ニアル
群島ニシテ、西ハ尼哥羅斯科海峽ヲ隔テ支那朝
鮮ニ對シ、北ハ樺太ニ接シ、魯西亞ノ屬地ニ臨ミ、
東南ハ太平洋ニ濱ス、其島大ナルモノ四アリ、南

飯島半十郎 編輯

那珂通高 校正

宮本三平 畫

狩野良信

ニアルヲ四國ト云ヒ、西ニアルヲ九州ト云ヒ、北
 ニアルヲ蝦夷ト云フ、今ハ此ヲ北海道ト稱ス、此
 中央ニアルヲ本土トス、其他琉球島アリ、壹岐、對
 馬、大島、種島、沖島、無人島ノ如キ者、枚舉ニ違アラ
 ス、全上北緯二十四度二十零分琉球波ヨリ起リ
 テ、五十四度北海道ニ至リ、經度東京徧東八度八
 分北海道ヨリ起リテ、偏西一十六度五十五分琉球
 與那ニ至ル、全國其長サ大凡五百餘里、廣サ大凡
 三十餘里ヨリ六十餘里ニ至ル、表面約二萬三千
 七百四十方里、

氣候ハ、大抵溫和ナリト雖、同緯度ノ他邦ニ比ス
 レハ寒暑共ニ酷シク、四國ノ如キハ暖ニシテ一
 年穀再熟スル所アリテ、夏時華氏ノ寒暖計百度
 以上ニ及フニ至ル、蝦夷地ノ如キハ、寒クシテ小
 麥熟成スルコトヲ得ス、夏時ト雖、單衣ヲ着ケザ
 ルコトアリ、冬時ハ、大雪丈餘、河氷歩シテ行クベ
 シ、中上東海道諸國ノ如キニ至リテハ、頗溫和ニ
 シテ殊ニ畿内諸國ハ、寒暄宜キヲ得、人身ニ適ス、
 其地勢ニ從ヒ、寒暑異同アルコト此ノ如シト雖、
 地皆溫帶中ニ位スルヲ以テ、寒暑共ニ寒帶熱帶

ノ如ク、甚シキニ至ラザルハ、實ニ國ノ幸福ト謂
フベシ

邦制

人種 言語文字 心性教法 風俗
政體 歴史

世界ノ人民、骨格各同ジカラザレド、コレヲ大別
シテ五種トス、曰ク莫古^{モコ}曰ク高加索^{カウカソ}曰ク以日阿^{イジア}
伯啞^{ドク}曰ク巫米由^{ウミユ}曰ク亞米利加^{アメリカ}ナリ我國ノ人種
ハ即莫古人種ニシテ、一ニ黄人種ト云ノ、顴骨秀
テ鼻高カラズ、頭顱廣濶ニシテ、皮膚或黄土色ナ

ルアリ、或褐色ナルアリ、頭髮漆黑ニシテ、鬚髯少
ク、或ハ無キモノアリテ、軀幹長大ナラズ、或曰ク
我國人ハ、莫古人種ニ属スト雖、間、容貌秀美ニシ
テ、骨相雄偉ナルモノアリ、殊ニ婦人ノ如キハ肌
膚ノ白キ雪ノ如ク、風姿婀娜トシテ、高加索人種
ニ近シト云フ、又近來蝦夷人種ハ、頭顱大ニ異ナ
ルヲ以テ、別人種ナリトノ説アレド、概皆莫古種
ニ属ス、上古何レノ國、何レノ地ヨリ、轉移セシモ
ノナルヤ、詳ナラズ、唯傳ヘテ神代三尊ヲ獨化ノ
神ト稱シ伊弉諾伊弉册ノ二尊、天降リテ、國土山

川、草木、及群神、蒼生ヲ化生シ給フト云ヘルノミ
○言語ハ、自國ノ語ニシテ、其發音清アリ、濁アリ、
南北各地同ジカラズ、蝦夷土人ノ如キハ、言語悉
異ニシテ、又文字ナレ、琉球ノ如キハ、文字アリト
雖、言語大ニ異ナル者アリ、文字ハ中古漢土ヨリ
傳習シ、方今用ヰル所ノ伊呂波四十八字ノ如キ
モ、亦皆漢字ヲ析製セシモノナリ、故ニ言語漢語
ヲ雜フルコト多シ、
○教法ハ古來隨神道アリト雖、今ハ多ク佛教ヲ
專トシ、或銅像木像カシナカラヲ拜シ、或禽獸草木ヲ祭ル、又

儒教ヲ奉ズル者アリ、然レモ皆佛教ノ盛ナルニ
如カズ、三百二十餘年前、ポルトガル葡萄牙人來リテ西洋教
ヲ傳へ、衆コレヲ尊信シ、禍亂ヲ生ゼシコトアリ、
コレヨリ一切西洋諸教ヲ禁シ目シテ邪教トス、
モシ犯スモノアレハ死刑ニ處セラル、近來ソノ
禁大ニ弛ビ、現今西教ヲ奉スル者漸ク多シ、
○人民ノ心性ハ、各地少シク異ナル所アリ、九州
ハ、熱悍ニシテ峭直、嘖笑苟セザルガ如ク、四國ハ、
武健ニシテ寛裕ノ氣ヲ帶ス、本土ノ西南ハ、文雅
ニシテ敦厚ナリ、東北ハ、朴直ニシテ稍俠氣アリ

北海道ハ、篤厚ニシテ人ヲ愛シ、蝦夷ハ、强健ニシテ愚魯ナリ、琉球ハ、柔順ニシテ閑雅ノ風アリ、然レドモ要スルニ、皆怜悯ニシテ、能ク物理ヲ考究ス、但固陋ニシテ小成ニ安スルノ風アリシガ、外國交通以來、漸開明ニ赴キ、人心少シク舊時ニ異ナルヲ覺ス、

○風俗ハ、土地ヲ以テ類ヲ分チ、華族アリ、士族アリ、平民アリ、神官アリ、僧侶アリ、又男ヲ尊ビ女ヲ賤シシ、男ハ頭髮髻ヲ結ブモノアリ、斬髮セルモノアリ、冠帽ヲ戴ク者アリ、戴カザル者アリ、草履

ヲ着スルアリ、皮履ヲ着スルアリ、各其意ノ欲スル所ニ隨ヒ、一様ナラズ、女ハ既ニ嫁スレバ、鐵漿ヲ以テ齒ヲ黒クス、衣服ハ中古唐制ニ倣ヒ、布帛ヲ以テ寛濶ノ衣袖ヲ裁シ、女ハ、長衣大帯ヲ着ス、又神官僧侶ノ如キ、各別ニ衣冠アリ、近來官吏及都會ノ人ハ、多ク西洋風ノ衣服ヲ摸擬ス、家屋ノ制ハ、板簀ヲ高クシ、厚席ヲ其上ニ鋪キ、家中椅卓ヲ用井ズ、近來都會各處ニ煉化石ヲ疊シ、西洋風ノ家屋ヲ建築スルモノアリ、飲食ハ刀叉匙ヲ用井ズ、箸ヲ以テ食フ、食フ所ノモノハ、五穀、野菜、魚

鳥ヲ專トシ、獸肉ヲ嗜マズ、是蓋中古佛法盛ニ行
 ハレ、殺生ヲ禁セシニ由レル者ナルベシ、近來都
 會ノ人ハ、漸牛豚ノ味ヲ知ル、故ニコレヲ鬻クモ
 ノ甚多シ、又酒ヲ嗜ミ、烟葉ヲ喫ス、人子ノ生業ハ、
 耕耘漁獵ヲ專トシ、牧畜ニ精シカラズ、製造品ハ、
 絹帛、陶器、漆器ノ類、最精巧ナリ、商賈ハ、貿易ノ法
 ヲ知ラズ、故ニ貨物ヲ搬運シ、外國ニ至ルモノ至
 テ少シ、○蝦夷ノ風俗ハ、男ハ、被髮ニシテ鬚眉多
 ク、耳ニ銀環ヲ穿テ、身體輕捷ナリ、女ハ、額面ニ花
 紋或ハ十字ヲ刺青ス、衣ハ男女共ニ左衽ニシテ

アツシ木ノ皮及獸皮ヲ以テ製シテ窄袖トス、生業
 ハ漁獵ヲ專トシ、耕種ヲ知ラズ、故ニ粒食セズシ
 テ魚腊ヲ食トス、又頗酒ヲ嗜ム、○琉球ノ風俗ハ、
 男女共ニ頭ニ簪ヲ挿ミ、男ハ數本、女ハ一本、凡テ
 男ハ逸シ、女ハ勞スルノ弊アリ、然レモ一般ニ儉
 樸ニシテ、勞作ニ堪ヘ、殊ニ耕漁ヲ務メ、居家ノ如
 キ、器械ノ如キ、大抵内地ニ同シ、古來ニ那ト交通
 セシ故ニ、言語風俗又大ニ支那ニ類ス、
 ○政體ハ、立君獨裁ニシテ、國初神武天皇ヨリ二
 千五百三十四年、一系相傳、百二十三代ノ今ニ至

ル其間政體ノ變革ハ、中古唐朝ニ倣ヒ、郡縣ノ制トシ、其後源賴朝霸府ヲ建テ、國政ヲ執リ、封縣ノ勢初メテ成ル、傳ヘテ北條、足利、織田、豊臣、徳川氏ヲ歴タリ、明治戊辰ニ至リテ王室復政ヲ親ラシ給ヒ再郡縣ノ制トナリ、外務、内務、宮内、大藏、工部、司法、文部、教部等ノ諸省ヲ置キ、又海軍、陸軍ノ兩省ヲ盛ニシ、太政大臣左右大臣ヲ輔佐トシ、其下ニ參議アリテ、各省ニハ卿輔アリ、府ニハ、知事アリ、縣ニハ令アリ、以テ政ヲ行ス、又別ニ議院ヲ設ケ、人民ノ公議ニ基ツキ、内外ノ事務ヲ評論セシ

メ大小ノ學校ヲ天下ニ設ケ、遍ク子弟ヲ教諭シ、電信四方ニ通ジ、郵便内外ニ達シ、官省ノ事務及百工技藝ニ至ルマデ、凡テ歐洲各國ヲ模擬シ、舊弊ヲ洗ヒ、新政ヲ布キ、駁々乎トシテ治化隆盛ノ域ニ入ラントス、嗚呼盛ナリト謂ベシ、抑世界萬國、政治同ジカラズ、其最善ト稱セラレ、者ハ、所謂共和政治ニシテ、米利堅ノ如キコトナリ、是ヲ以テ論者常ニ我國政ヲ變ジ、共和政トナサシコトヲ欲ス、蓋共和政治ハ、上下人民多年ノ勞苦ヲ經テ而ル後ニ相親睦シ、初メテ其政ヲ施スニ非

レハ能ハザルナリ、近來佛蘭西、西班牙ノ如キ、皆國政ヲ變ジ、共和政トナサントスレバ、内亂常ニ生ジテ其政善美ナルコトヲ得ズ、佛、西ノ開明ヲ以テ猶且カクノ如シ、況ヤ我國ノ如キニ於テヲ

歴史

神代ノ事跡ハ、史籍詳ナラズ、神武天皇日向ヨリ興リ、舟師東征シテ大和ニ入り、橿原宮ニ即位シ給フ、今ヲ距ルコト實ニ二千五百三十四年天皇睿聖ニシテ、海内ヲ平定シ、萬世無窮ノ基業ヲ創

ム、崇神天皇ニ至リ、益皇業ヲ恢弘セシカ、景行天皇ニ及ヒテ、東西賊起ル、因リテ皇子小碓ヲシテ、コレヲ征セシム、皇子先ツ熊襲ヲ平ケ、又東蝦夷ノ境ニ至リ、歸リテ伊勢ノ能褒野ニ薨ス、天皇大ニ悲悼シ、葬ルニ天子ノ禮ヲ以テス、日本武尊是ナリ、天皇ノ孫ヲ仲哀天皇トス、熊襲又叛ス、天皇親征シテ其地ニ崩ス、皇后軍ヲ督シテ、遂ニ新羅ニ入り、新羅ヲ降タス、高麗、百濟モ亦隨ヒテ朝貢ス、是ヲ神功皇后トス、數世ヲ經テ、雄略天皇ニ至ル、天皇猛厲ニシテ殺ヲ嗜ム、末年非ヲ悔イ、政ヲ

勤メ、后妃ヲシテ躬蠶ヲ養ハシム、帝崩シテ清寧
 天皇立ツ、顯宗、仁賢ヲ歴テ武烈ニ至ル、帝殘酷ニ
 シテ殺ヲ好ミ、驕奢ヲ縱ニズ、然レモ天資英爽ニ
 シテ能ク獄訟ヲ斷ス、欽明天皇ノ時百濟ヨリ佛
 像及經論ヲ獻ズ、帝コレヲ蘇我ノ稻目ニ賜フ稻
 目コレヲ尊信シ、向原地名ノ家ヲ伽藍トシ、向原寺
 ト云フ、我國佛法ヲ信ズル稻目ヨリ始ル稻目ノ
 子、馬子、亦敏達天皇ノ朝ニ在リテ、佛法ヲ信ス、用
 明天皇ニ至リ、佛教愈熾トリ、帝崩ズルニ及ビテ、
 馬子遂ニ崇峻天皇ヲ弑ス、人臣欲ヲ縱ニシ、君ヲ

弑スルハ、實ニ馬子ヲ以テ始トス推古天皇ハ萬
 機ヲ親ラセズ、皇子厩戸ヲ立テ、皇太子トス、皇
 太子薨ズ、謚ヲ聖德ト云フ、皇極天皇ノ時馬子ノ
 子、蝦夷其子入鹿ト朝權ヲ秉リ、皇家ヲ蔑視スル
 コトト日ニ甚シ、皇子中大兄、藤原鎌足ト謀リテ、入
 鹿ヲ誅ス、蝦夷モ、亦自殺シテ事平ク、帝崩シテ、位
 ノ皇太帝ニ譲リ、以テ天智天皇ニ傳フ即中大兄
 ナリ、孝謙天皇ノ時、佛教愈熾ニ行ハレ、帝出家シ
 テ佛ニ歸シ、位ヲ皇太子ニ傳フルニ至ル後太子
 罪ナクシテ廢セラレ、孝謙天皇復祚シ給フ、コレ

ヲ稱徳天皇ト云フ、是ヨリ先、天皇僧道鏡ヲ寵ス、
道鏡寵ヲ恃ミ、權ヲ專ニシテ、神器ヲ覬覦シ、和氣
清麻呂ヲシテ、宇佐八幡ノ神勅ヲ請ハシム、清麻
呂直言シテ大隅ニ流サル、天皇崩レテ、光仁、桓武
ニ至ル、此際儒教熾ニ行ハレ、入唐留學スル阿部
仲麻呂カ如キ者頗多シ、唐玄宗仲麻呂ノ才ヲ愛
姓名ノ改メテ、厚クコレヲ過シ、遂ニ
朝衙ト云フ、文徳天皇ヨリ後ハ、藤原氏ノ勢威
漸盛ナリ、朱雀天皇ノ時ニ及ヒテ、平將門、藤原純
友ト東西ニ反ス、尋テ事平以、後冷泉天皇ニ至リ、
陸奥ノ俘首、安倍頼時叛ク、源頼義、其子義家トコ

レヲ討ツ、頼時ノ子貞任、宗任、父ト共ニコレヲ防
キ、相戦フコト九年、遂ニ諸城ヲ陷レ、其亂平定ス、
堀河天皇ノ時、清原武衡及家衡又亂ヲ陸奥出羽
ニ作ス、義家又討テコレヲ平ク、後白河天皇其
兄崇徳天皇ト位ヲ争ヒテ相戦フ、コレヲ保元ノ
亂ト云フ、此時平清盛功アリテ寵セラレ、二條天
皇ノ時ニ及ヒテ、權中納言信賴反ス、天皇女装シ
テ清盛ノ第ニ入ル、清盛其子重盛ト信賴ヲ討テ
テコレヲ平ク、コレヲ平治ノ亂ト云フ、其後清盛
ノ威權日ニ盛ニシテ、二條天皇ノ時ニ至リテハ、

自太政大臣トナル、天皇位ヲ皇太子ニ讓ルコト
ヲ高倉天皇ト云フ、清盛薙髮シテ静海ト云ヒ、益
威福ヲ恣ニシ、其族高官ニ任スルモノ、六十餘人
采地三十餘國ニ跨ル、天皇位ヲ安徳天皇ニ讓リ
テ崩ス、安徳天皇ハ、清盛ノ外孫タリ、源賴政、以仁
親王ノ令ヲ奉ジ、兵ヲ起シ、平氏ヲ討ントス、成ラ
スレテ死ス、源賴朝、亦親王ノ令ヲ奉シテ、兵ヲ伊
豆ニ舉ケ、源義仲モ亦令ヲ奉シテ、兵ヲ信濃ニ起
シ、賴朝ニ應ジ、平氏ノ諸將各兵ヲ率テ迎ヘ戰フ、
義仲進ミテ京師ニ入ル、平宗盛、帝及神器ヲ挾ミ

テ西國ニ走ル、義仲、征夷大將軍トナリ、高倉天皇
ノ第四子ヲ立テ、後鳥羽天皇トス、此時東西ニ義
天皇アリ
仲京師ニ在リテ驕恣ナリ、源賴朝討チテ、コレヲ
滅シ、勝ニ乘ジテ平氏ヲ攻メ、一谷ニ戰ヒ、八島ヲ
破ル、清盛ノ妻、時子、安徳天皇ヲ抱テ海ニ入り、平
氏遂ニ亡ブ、平氏凶ビテ、賴朝ノ勢甚熾ナリ、霸府
ヲ鎌倉ニ建テ、天下ノ總守護タリ、是ヨリ政武門
ニ歸ス、土御門天皇ヲ經テ順徳天皇ニ至リ、北條
氏源氏ニ代リ權ヲ擅ニシ、京師ヲ襲ヒ、天皇ヲ佐
渡ニ遷ス、因リテ高倉ノ皇孫ヲ立ツ、コレヲ後堀

河天皇ト云フ、龜山天皇ノ時、蒙古入寇ス、九州ノ兵、コレヲ敗リテ、大風舟ヲ覆ヘシ、其兵生キテ還ルコトヲ得ルモノ、僅ニ三人、後醍醐天皇ノ時、北條氏ノ威權愈熾ニシテ、詔ヲ奉ゼザルニ至ル、楠正成勤王ノ大義ヲ唱ヘ、詔ヲ奉ジテ兵ヲ舉グ、北條高時、天皇ヲ隱岐ニ遷シテ、光嚴天皇ヲ立ツ、此時新田義貞兵ヲ上野ニ起シ、鎌倉ヲ取り、高時ヲ誅シ、北條氏亡ビ、後醍醐天皇復京師ニ還ル、既ニシテ足利高氏叛キテ兵ヲ起シ、故ノ後深草天皇ノ胤ヲ立ツ、是ヲ北朝トシ、後醍醐天皇ハ、大和ニ

アリ、コレヲ南朝ト云フ、其間五十一年ニシテ、南北一トナル、後足利氏政ヲ失ヒ、後柏原天皇ノ時ニ及ヒテハ、細川、三好、武田、上杉等各其土ニ據リテ相戦ヒ、織田信長、尾張ヨリ起リテ近國ヲ蠶食シ、兵威最震フ、遂ニ足利義昭ヲ逐ヒテ、之ニ代ル未幾ナラズシテ、明智光秀、信長ヲ弑ス、豊臣秀吉、兵ヲ舉ケテ光秀ヲ誅シ、遂ニ織田氏ニ代リ、西征東伐、天下略定リ、遂ニ朝鮮ヲ征スルニ至ル、子秀頼ニ及ヒテ、徳川氏コレニ代リ、征夷大將軍ニ任シ、天下ヲ統治スルコト二百五十餘年、世々相繼

ク、十五代將軍家慶ノ時、亞米利加ノ使者、始メテ相摸ノ海ニ來リ通信貿易ヲ請フ、家慶薨レテ家定繼ク、亞米利加、英吉利ノ軍艦、再來リテ通信ヲ請フ、家茂ノ時、英、佛、亞、魯ト通信ノ條約ヲ結ブ、昔時足利氏ノ末、凡三百三十年前葡萄牙ノ人九州ニ來リテ貿易シ、我商人モ亦大船ヲ製造シ、印度地方ニ赴ク者多シ、其後慶長年間、英、葡ノ人來リテ異教ヲ傳フル者アリ、下民コレヲ尊信ス、時ニ奸人アリテコレヲ煽動シ、寛永ノ末ニ至リテ、肥前島原ノ役アリ、因リテ外國ノ通信ヲ禁シ、大船ヲ製造

スルコトヲ許サス、唯和蘭、支那ノ二國、長崎ニ於テ纔ニ通商スルノミ、是ヲ以テ數世ノ後、人心舊ニ慣レ、外國人ヲ視ルコト仇讐ノ如シ、亞國軍艦ノ下田ニ來ル、兵備ヲ嚴ニシ、コレヲ砲擊セントスル者屢ニシテ、或ハ礮臺ヲ設ケ、或ハ新ニ甲冑ヲ製ス、其舉動今ニシテコレヲ顧レハ、恥汗背ニ浹シ、幕府早ク萬國ノ情ヲ通知シ、終ニ條約ヲ結ブ、是ニ於テ激徒攘夷論ヲ主張シ、英、亞、人數名ヲ殺シ、大老井伊直弼ヲ害シ、閻老安藤侍從ヲ傷ツク、此時朝廷モ亦攘夷論ヲ可トシ、幕府ヲシ

日本地理全誌 卷之十一
テ攘夷ノ論ヲ諸藩ニ布カシム、毛利氏其旨ヲ奉
シテ佛國ノ軍艦ヲ赤間關ニ砲撃ス、其後英佛ノ
軍艦長門ニ至リ、一戰毛利氏ノ兵ヲ破リ、遂ニ上
陸シテ砲器ヲ奪ヒサル、是ヨリ先武藏ノ生麥村
ニ島津藩士、英人ヲ殺害ス、英人憤リテ軍艦十八
艘ヲ以テ薩摩ニ迫リ、砲撃シテ船艦ヲ奪ヒ去ラ
ントシテ、英ノ船將彈丸ニ中リテ死シ、乃軍ヲ旋
ス、毛利氏コレヲ聞キテ、益攘夷論ヲ主張シ、其士
難ヲ京師ニ起ス、英佛軍艦赤間關ニ到因リテ朝
廷毛利氏ノ官爵ヲ削リ、長門追討ノ令ヲ下ス、諸

藩ノ兵、コレヲ攻メテ降スコト能ハス、其年將軍
家茂薨シ、長防追討ノ兵ヲ止メ、一橋中納言繼キ、
テ將軍ニ任セラル、慶應二年十二月孝明天皇崩
ス、明年將軍職ヲ辭シ、政權ヲ王室ニ歸ス、此時關
西諸藩ノ激徒攘夷ノ論稍止ミ、英佛亞蘭ノ公使
初メテ皇帝ニ謁ス、明年明治ト改元シ、今上皇帝
東京ニ臨幸シテ皇居トス、其後封縣ノ制ヲ變シ、
郡縣トシ、國制專西洋各國ノ風ヲ模倣シ、人々開
化ノ世ト稱ス、然レトモ外國人ヨリコレヲ見レ
ハ、未其果レテ如何ナルヲ知ラザルナリ、

五畿八道總論

全國ヲ分チテ、五畿八道トス。五畿ハ、山城、大和、河内、和泉、攝津ノ五國ナリ。上古ヨリ近歲ニ至ルマテ、都ヲ近江ニ遷スコト兩度ヲ除クノ外ハ、王城皆此間ニアリ、因リテ畿内ト稱ス。八道ハ、曰ク東海道、曰ク東山道、曰ク北陸道、曰ク山陰道、曰ク山陽道、曰ク南海道、曰ク西海道、曰ク北海道、又別ニ琉球島アリ、東海道ハ、十五國、曰ク武藏、曰ク安房、曰ク上總、曰ク下總、曰ク常陸、曰ク相模、曰ク甲斐、曰ク伊豆、曰ク駿河、曰ク遠江、曰ク三河、曰ク尾張、

曰ク志摩、曰ク伊勢、曰ク伊賀、是ナリ。東山道ハ、十三國、曰ク近江、曰ク美濃、曰ク飛驒、曰ク信濃、曰ク上野、曰ク下野、曰ク岩代、曰ク磐城、曰ク陸前、曰ク陸中、曰ク陸奥、曰ク羽前、曰ク羽後、是ナリ。明治元年陸中、陸奥、羽前、羽後ノ七國トス。北陸道ハ、七國、曰ク若狹、曰ク越前、曰ク加賀、曰ク能登、曰ク越中、曰ク越後、曰ク佐渡、是ナリ。山陰道ハ、八國、曰ク丹波、曰ク丹後、曰ク但馬、曰ク因幡、曰ク伯耆、曰ク出雲、曰ク石見、曰ク隱岐、是ナリ。山陽道ハ、八國、曰ク播磨、曰ク美作、曰ク備前、曰ク備中、曰ク備後、曰ク

安藝曰ク周防、曰ク長門、是ナリ、南海道ハ、六國、曰ク紀伊、曰ク淡路、曰ク阿波、曰ク讃岐、曰ク伊豫、曰ク土佐、是ナリ、西海道ハ、九國、曰ク筑前、曰ク筑後、曰ク豊前、曰ク豊後、曰ク肥前、曰ク肥後、曰ク日向、曰ク大隅、曰ク薩摩ニシテ、壹岐、對馬、二島コレニ屬ス、北海道ハ、十一國、曰ク渡島、曰ク後志、曰ク石狩、曰ク天鹽、曰ク北見、曰ク膽振、曰ク日高、曰ク十勝、曰ク釧路、曰ク根室、曰ク千島、是ナリ、樺太コレニ屬ス、北海道ハ舊蝦夷地ト稱ス、明治二年八月分チテ、十一國トズ、諸道ノ國々總計八十四國、國中ニ郡アリ、郡中ニ村アリ、北

海道ヲ除キテ總計七百十七郡、六萬三千六百有餘村、其中ニ府三アリ、曰ク東京府、曰ク京都府、曰ク大坂府、是ナリ、東京府ハ、武藏三郡下總一郡ヲ管シ、京都府ハ、山城八郡丹波三郡ヲ管シ、大坂府ハ、攝津七郡ヲ管ス、皆大都ニシテ、東京府ハ方今皇居ノ在ル所ナリ、三府ノ外ニ治ヲ六十縣ニ分ツ、一縣ニ國ニ跨ルモノアリ、一國ニ縣ヲ異ニスルモノアリ、而シテ北海道ハ與カラズ、縣ノ名ハ、曰ク神奈川、曰ク兵庫、曰ク長崎、曰ク新潟、曰ク埼玉、曰ク足柄、曰ク千葉、曰ク茨城、曰ク熊谷、曰ク枋

木曰ク奈良曰ク堺曰ク三重曰ク度會曰ク愛智
 曰ク濱松曰ク静岡曰ク山梨曰ク滋賀曰ク岐阜
 曰ク筑摩曰ク長野曰ク宮城曰ク福島曰ク磐前
 曰ク若松曰ク水澤曰ク岩手曰ク青森曰ク山形
 曰ク置賜曰ク酒田曰ク秋田曰ク敦賀曰ク石川
 曰ク新川曰ク相川曰ク豊岡曰ク鳥取曰ク島根
 曰ク濱田曰ク鉢磨曰ク北條曰ク岡山曰ク小田
 曰ク廣島曰ク山口曰ク和歌山曰ク名東曰ク愛
 媛曰ク高知曰ク福岡曰ク三潁曰ク小倉曰ク大
 分曰ク佐賀曰ク白川曰ク宮崎曰ク鹿兒島ナリ

○全國ノ人口ハ三千二百八十六萬六千一百六
 十一人、辛未ノ秋、開ス石高ハ、東京府ハ、十六萬石
 餘、京都府ハ、三十八萬石餘、大坂府ハ、二十四萬石
 餘、神奈川縣ハ、三十三萬石餘、兵庫縣ハ、十七萬石
 餘、長崎縣ハ、二十七萬石餘、地米高二萬石餘、新潟
 縣ハ、百十二萬石餘、埼玉縣ハ、四十八萬石餘、足柄
 縣ハ、二十六萬石餘、千葉縣ハ、九十八萬石餘、新治
 縣ハ、六十二萬石餘、茨城縣ハ、五十萬石餘、熊谷縣
 ハ、八十四萬石餘、枋木縣ハ、九十四萬石餘、奈良縣
 ハ、五十萬石餘、堺縣ハ、四十六萬石餘、三重縣ハ、五

十三萬石餘、度會縣八、三十四萬石餘、愛知縣八百
 二十三萬石餘、濱松縣八、三十七萬石餘、静岡縣八
 二十五萬石餘、山梨縣八、三十二萬石餘、滋賀縣八
 八十六萬石餘、岐阜縣八、七十二萬石餘、筑摩縣八
 三十八萬石餘、長野縣八、四十五萬石餘、宮城縣八
 五十五萬石餘、福島縣八、四十六萬石餘、磐前縣八
 四十六萬石餘、若松縣八、三十七萬石餘、水澤縣八
 四十三萬石餘、岩手縣八、二十四萬石餘、青森縣八
 四十二萬石餘、山形縣八、四十九萬石餘、置賜縣八
 二十九萬石餘、酒田縣八、二十三萬石餘、秋田縣八

五十萬石餘、敦賀縣八、七十八萬石餘、石川縣八、七
 十七萬石餘、新川縣八、八十二萬石餘、相川縣八、十
 三萬石餘、豐岡縣八、四十六萬石餘、鳥取縣八、四十
 五萬石餘、島根縣八、三十一萬石餘、濱田縣八、十八
 萬石餘、飾磨縣八、六十五萬石餘、北條縣八、二十六
 萬石餘、岡山縣八、四十一萬石餘、小田縣八、五十萬
 石餘、廣島縣八、五十萬石餘、山口縣八、百一萬石餘
 和歌山縣八、四十萬石餘、名東縣八、七十五萬石餘
 愛媛縣八、四十四萬石餘、高知縣八、五十一萬石餘
 福岡縣八、六十五萬石餘、三潯縣八、五十三萬石餘

小倉縣ハ、三十六萬石餘、大分縣ハ、四十五萬石餘、佐賀縣ハ、二十五萬石餘、地米高二十五萬石、餘、白川縣ハ、八十五萬石餘、宮崎縣ハ、四十一萬石餘、鹿兒島縣ハ、六十四萬石餘、琉球ハ、九萬石餘、明治六年閏ス

ハ所ニ從フ

古來皇居ヲ遷サセ給フ地ヲ舉クレハ神武天皇初メテ倭ノ橿原ニ都シ、其後景行、成務兩天皇ハ、近江ノ志賀、仲哀天皇ハ、長門ノ豊浦、仁德天皇ハ、攝津ノ難波、反正天皇ハ、河内ノ丹比、孝德天皇ハ、難波ノ長柄、天智弘文兩天皇ハ、近江ノ大津、桓武

天皇ハ、山城ノ平安城、其他ノ天皇ハ、皆大和ニ都シテ、後醍醐天皇ハ、行宮ヲ吉野ニ立テ、後小松天皇ハ、平安城ニ遷リ、今上皇帝ニ至リテ、初メテ武藏ノ東京ニ遷リ給フ、

全國六所ニ鎮臺アリ、一ハ東京、二ハ陸前ノ仙臺城、三ハ尾張ノ名古屋城、四ハ攝津ノ大坂城、五ハ安藝ノ廣島城、六ハ肥後ノ熊本城ナリ、皆警所アリテ、東京ハ、東京佐倉高崎ナリ、仙臺城ハ、仙臺、青森ナリ、名古屋城ハ、名古屋、金澤ナリ、大坂城ハ、大坂、水津、姫路ナリ、廣島城ハ、廣島、丸龜ナリ、熊本城

ハ熊本、小倉ナリ、全國ノ兵數、平時ハ三萬千六百八十人、戰時ハ四萬六千三百五十人、周海ノ燈臺十數所、武藏ノ品川沖、同横濱ノ埠頭、同本牧、遠江ノ御前岬、三河ノ前芝村、尾張ノ中須、及熱田、越後ノ新潟、陸奥ノ尻屋崎、陸前ノ石巻、志摩ノ安乘浦、同菅島、同神島、相模ノ觀音崎、同劍崎、同城島、安房ノ野島崎、上總ノ富津洲、伊豆ノ神子元島、出雲ノ美保、同安來、石見ノ外浦、同沖馬島、同擲島、播磨ノ飾磨、同高砂、同明石、備中ノ真鍋島、及笠岡港、備後ノ鞆津、同石室崎、紀伊ノ檜野崎、同汐

岬、攝津ノ天保山、同和田、岬、和泉ノ堺、同岸ノ和田、谷川港、淡路ノ江崎、安藝ノ御手洗、同忠海、同瀬戸田、同竹原、長門ノ六連島、肥前ノ伊王島、肥後ノ牛深、大隅ノ佐田ノ岬、渡島ノ箱館等ナリ、燈光赤白ヲ分テ、行船ニ便ニス、全國ノ神社ハ、官幣大社及中社小社、共ニ三十九社、官ノ祭ル所ナルヲ以テ、國幣中社小社ナシ、共ニ六十一社、地方官ノ祭ル所ナルヲ以テ、全國ノ大山ハ、約三百餘、其中最高峻ナルモノヲ、駿河ノ富士山トス、直立千二百丈餘、コレニ亞グ

日本地理全書 卷之二 二十

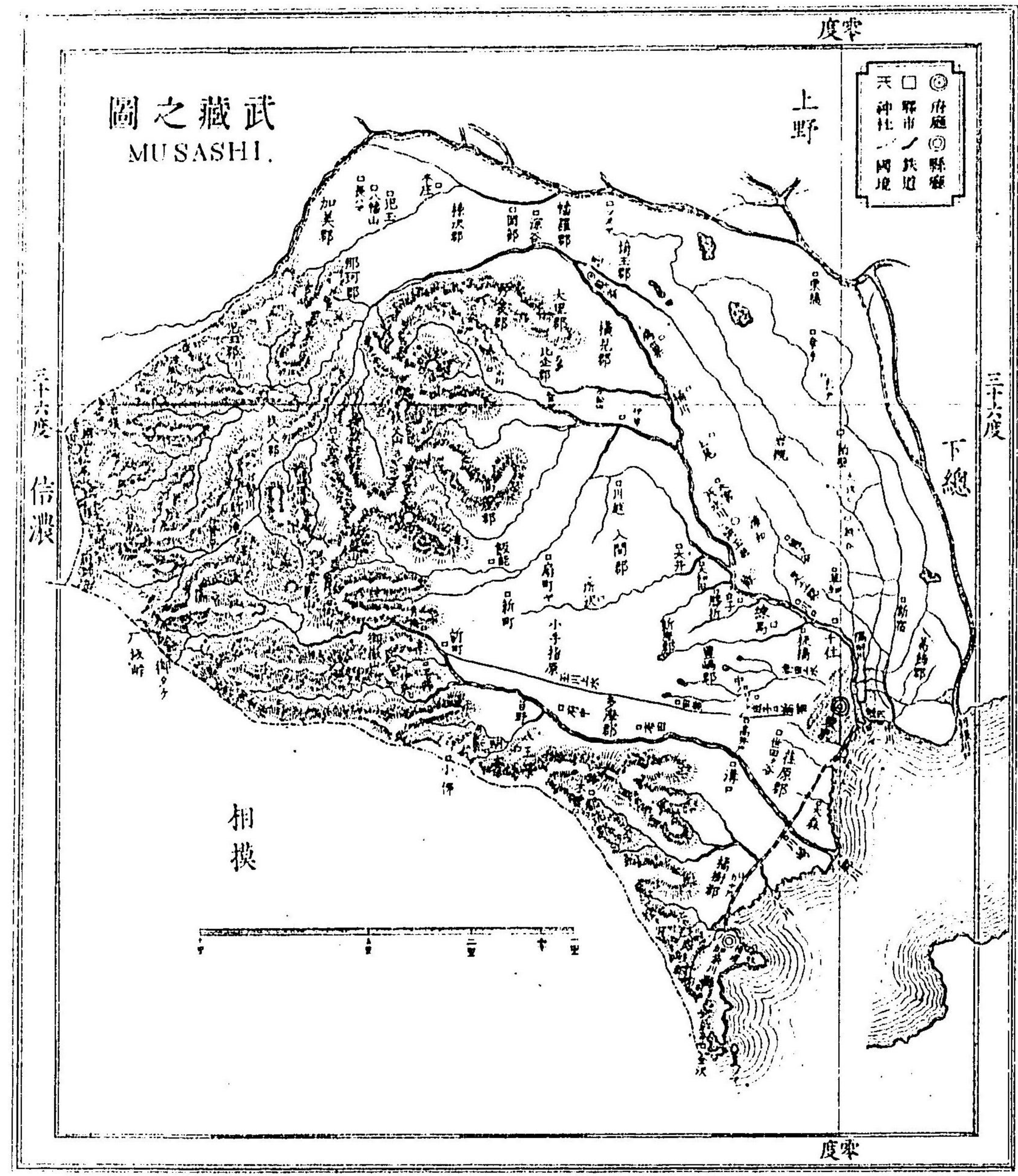
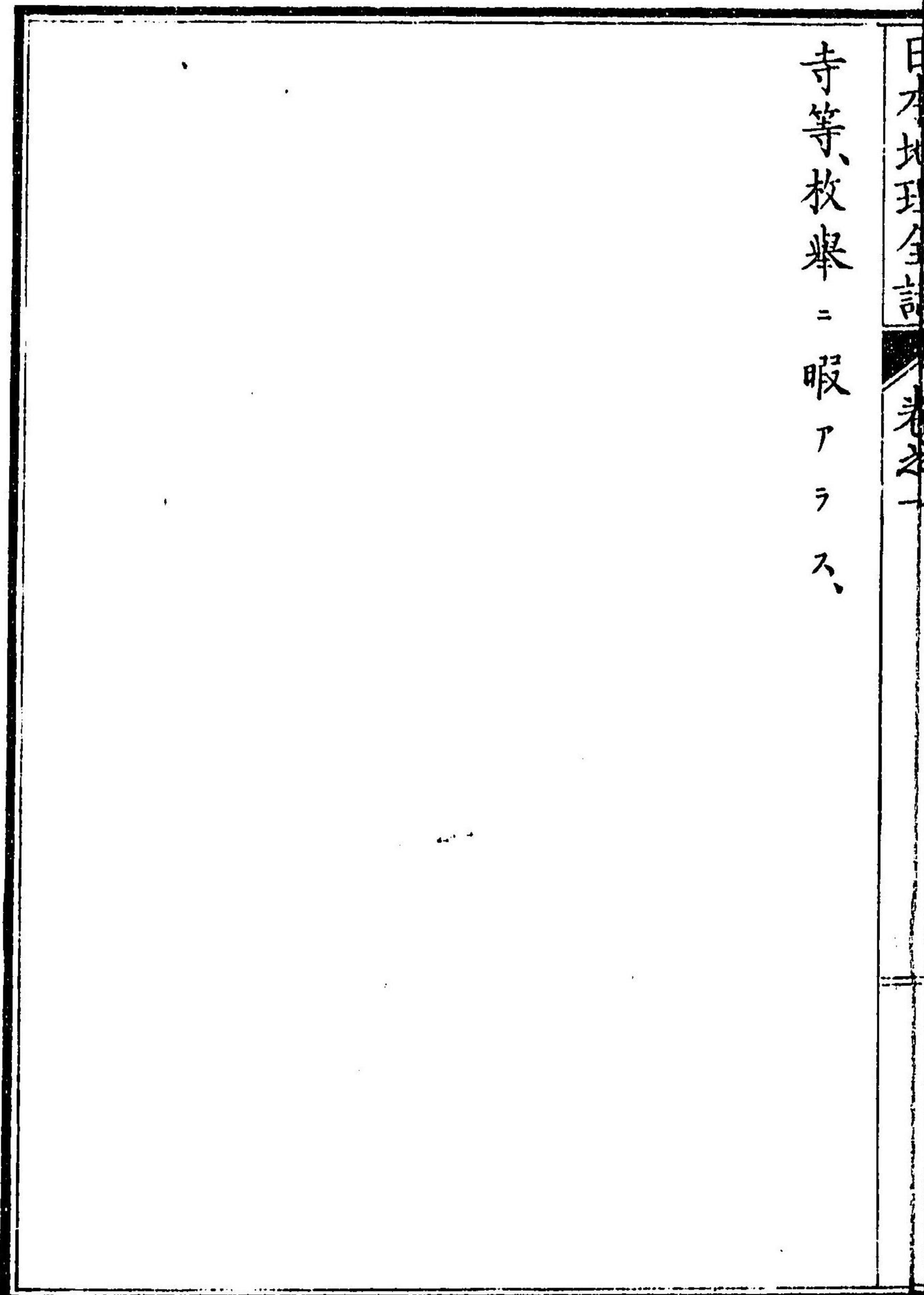
ハ、信濃ノ御岳、日向ノ祖母岳、大和ノ大峰、紀伊ノ
 大塔ノ峰、越中ノ立山、加賀ノ白山、伊豫ノ石鎚山、
 下野ノ日光山、羽前ノ鳥海山、薩摩ノ海門岳、及八
 重岳、肥後ノ霧島山、後志ノ後志山等ニシテ、其餘
 ハ多ク小ナリ、川ハ三百十數條、其中大ナルモノ
 ハ武藏ノ利根川、總野ニ界ス、俗ニ坂東太郎ト云フ、筑後ノ筑後川、
坂東太郎ト云フ、信濃ノ千隈川、木曾川、磐城ノ
 阿武隈川、陸中ノ北上川、羽前ノ最上川、遠江ノ天
 龍川、大井川、土佐ノ渡川、紀伊ノ紀川、石狩ノ石狩
 川、十勝ノ十勝川、天塩ノ天塩川等ニシテ、其餘ハ

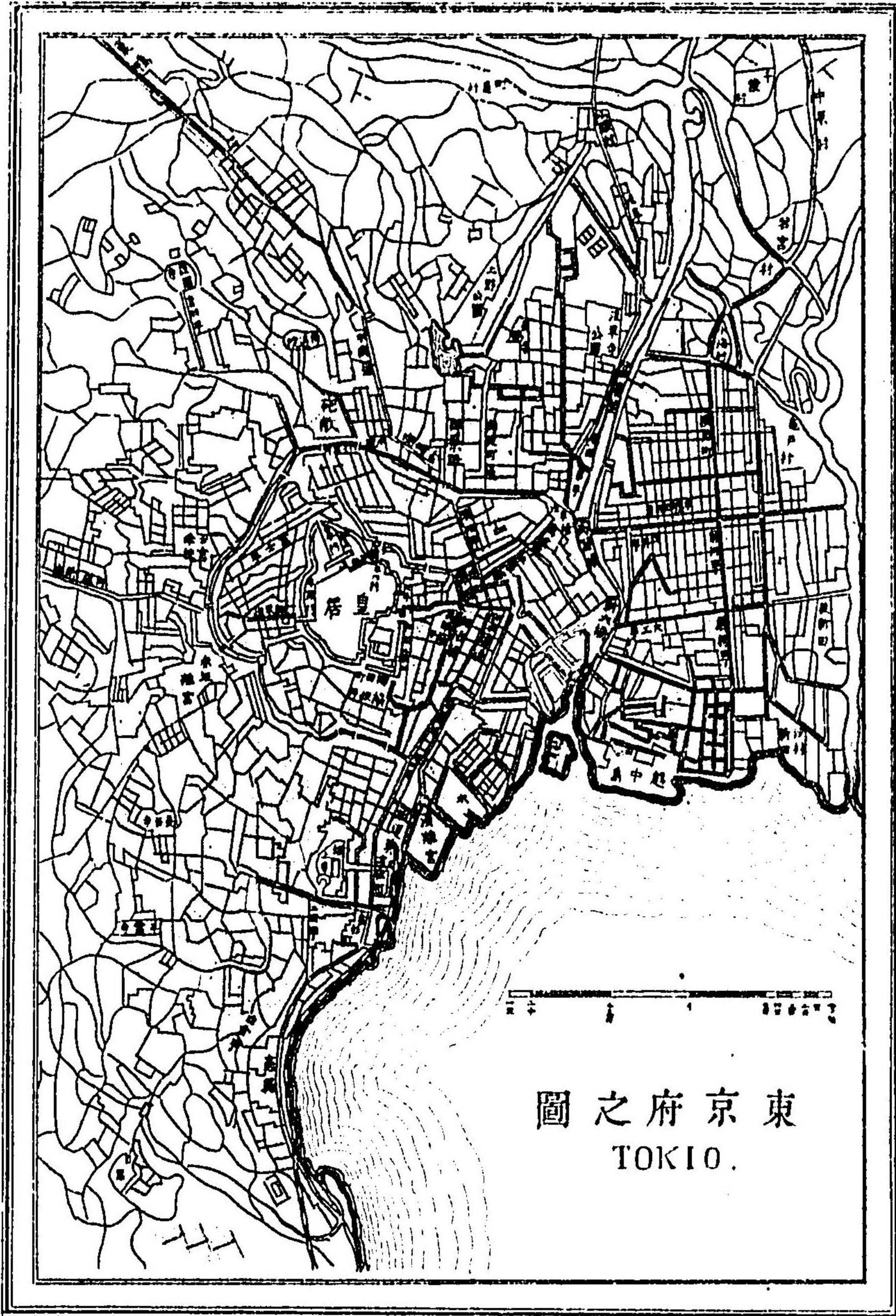
多ク小ナリ、又港ハ三百四十餘、其外外國貿易ノ
 地ハ五港ナリ、又島ハ壹岐對島ヲ除キテ三千八
 百零一アリ、湖ハ近江ノ琵琶湖ヲ第一トシ、出雲
 ノ中海、及宍道湖、信濃ノ諏訪、岩代ノ猪苗代、下總
 ノ印旛、常陸ノ霞浦等ニシテ、其他甲、駿、陸、羽ノ諸
 湖ノ如キ枚舉ニ違アラズ、又洋一アリ、太平洋ト
 云フ、海ニアリ、日本海、疍哥斯科海ナリ、又灣ノ大
 ナルモノハ武藏ノ品川、駿河ノ灣、伊勢ノ灣、陸前
 松島ノ灣、羽後ノ八郎潟ノ灣、攝州大坂ノ灣、鹿兒
 島ノ灣、渡島ノ箱館灣、膽振、根室ノ灣ナリ、又岬ハ

下總ノ犬吠岬、遠江ノ御前岬、志摩ノ大王岬、紀伊ノ汐御崎、伊豫ノ串浦岬、出雲ノ日御崎、大隅ノ佐多岬、北見ノ知床岬、日向ノ襟藻岬等ハ其大ナルモノナリ、海峽ハ、紀伊ノ峽、淡路ノ苦島峽、播磨ノ岩屋峽、阿波ノ鳴門峽、長門ノ赤間關峽、陸奥ノ津輕峽、北見ノ知主峽等、皆著名ナリ、
全國火山多シ、故ニ時々震災アリ、其大ナルモノハ、駿河ノ富士山寶永ノ昔、災破大ニ噴吐シテ、其後氣烟ナシ、伊豆ノ大島、越後ノ焼山、及妙高山、信濃ノ淺間岳、岩代ノ二本松嶽、陸中ノ岩手山、伯耆ノ大山、肥前ノ温泉岳、

肥後ノ阿蘇山、日向ノ霧島山、大隅ノ櫻島、薩摩ノ硫黃島等ニシテ、北海道ニモ亦惠山、白岳等アリ、
○瀑布ハ、下野ノ日光ノ諸瀑、羽前ノ白糸ノ瀑、美濃ノ養老瀑、信濃ノ米子瀑、攝津ノ布引瀑、薩摩ノ曾木瀑、紀伊ノ那智瀑、釧路ノ阿寒瀑等ナリ、
温泉ハ、各地皆アリ、其最著名ナルモノハ、伊豆ノ熱海、修禪寺、相摸ノ箱根、上野ノ草津、伊加保、下野ノ那須、高原、攝津ノ有馬、多田等ニシテ、其他但馬ノ城ノ崎、筑前ノ武藏、因幡ノ石井、吉岡、信濃ノ別所、加賀ノ湯涌、陸中ノ滴石臺、湯、岩代ノ若松、天寧

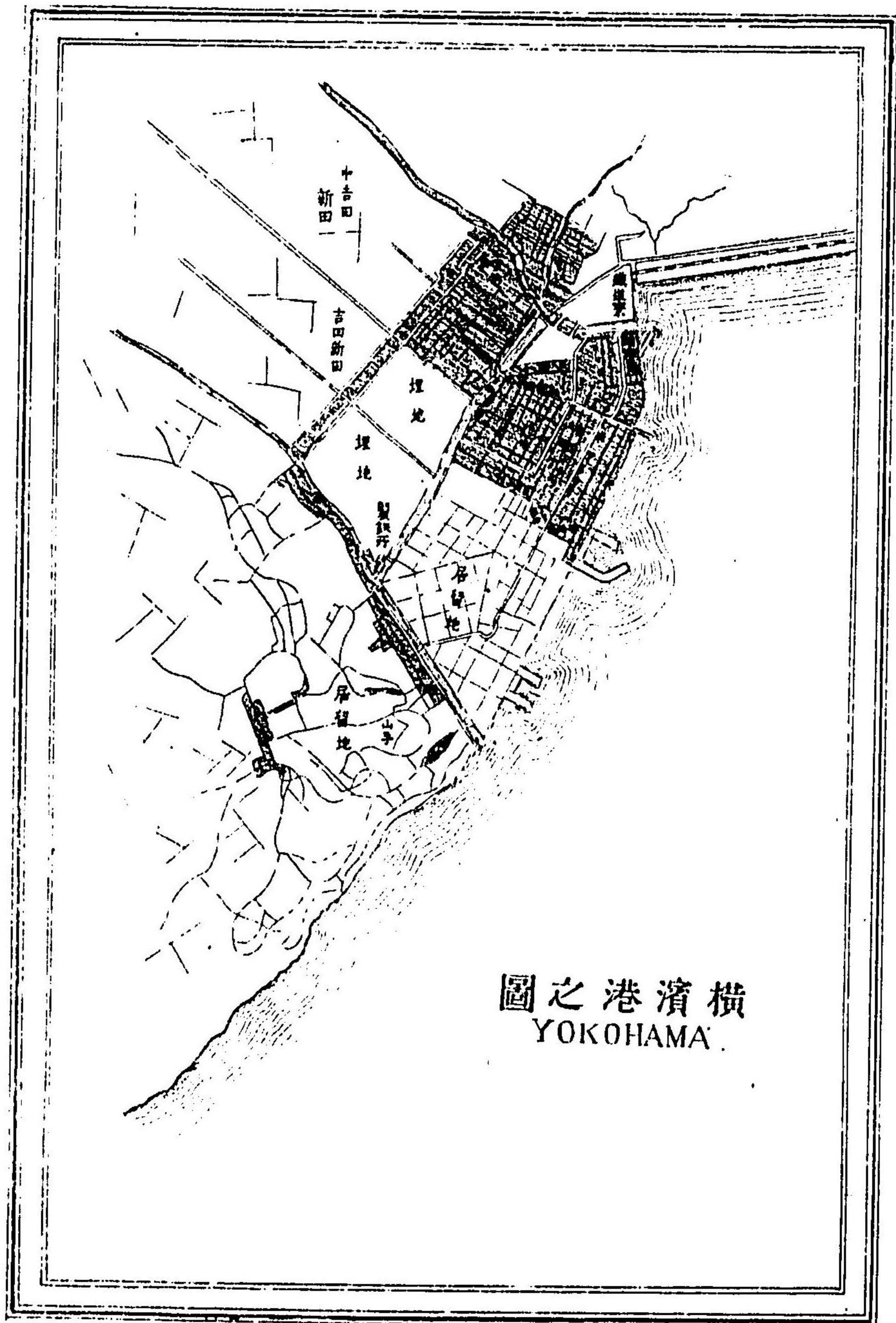
寺等、枚舉ニ暇アラス、





東京府之圖
TOKIO.

又ノ二十二



圖之港濱橫
YOKOHAMA.

武藏誌

位置

武藏國ハ、北ハ上野ニ界シ、南ハ相模ニ隣リ、東ハ下總ニ接シ、又海灣ヲ隔テ、上總、安房ニ對シ、西ハ甲斐、信濃ニ連ル、全土大抵平坦ニシテ、西方纔ニ山峰アリ、コレヲ秩父山ト云フ、古昔日本武尊東征ノ時、兵器ヲ此山ノ麓ニ藏ム、因リテ武藏ノ名アリト云フ、全國分チテ二十四郡トス、曰ク豊島、曰ク荏原、曰ク橘樹、曰ク都筑、曰ク久良岐、曰ク多摩、曰ク新坐、曰ク入間、曰ク高麗、曰ク秩父、曰ク

男衾曰ク大里、曰ク比企、曰ク横見、曰ク足立、曰ク葛飾、曰ク埼玉、曰ク幡羅、曰ク榛澤、曰ク那賀、曰ク兒玉、曰ク加美、此中ニ府アリ、東京府ト云フ、縣アリ、神奈川縣ト云ヒ、埼玉縣ト云ヒ、熊谷縣ト云フ、

土地

東京府ハ、東洋第一ノ大都會ニシテ、東ハ下總ニ界シ、荏原、豊島ノ二郡ヲ包ミ、足立、葛飾ノ二郡ニ跨ル方今皇居此中ニアリ、即舊ノ江戸城ニシテ、後花園天皇ノ時、鎌倉ノ管領、上杉定政ノ老臣、太田道灌ノ建テタル所ナリ、其後徳川氏政府ヲ此

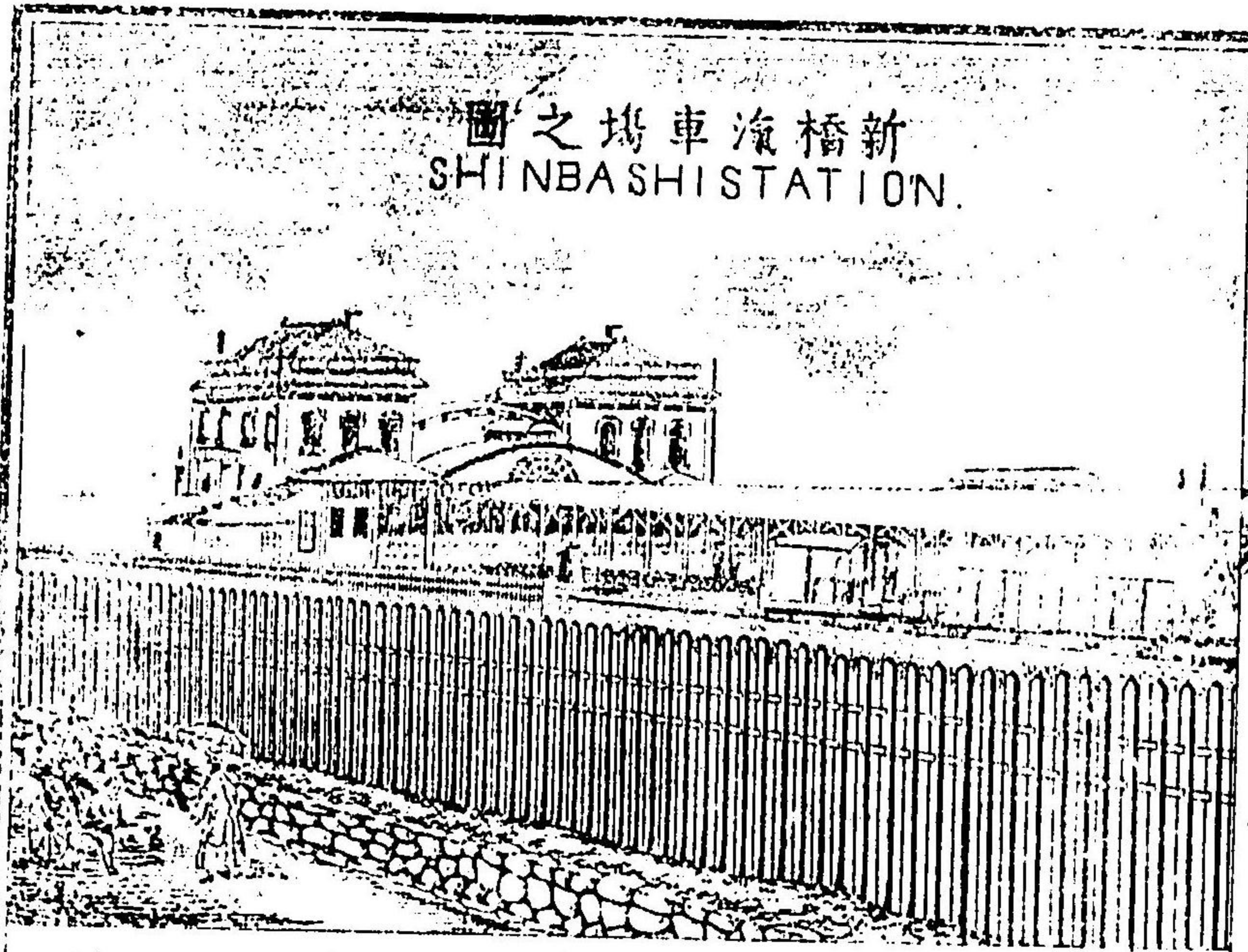
ニ開キ、世々相續キシカ、王政維新ノ際、天皇臨幸アリテ皇居トス、皇居ノ周圍ニ、内務省アリ、大藏省アリ、工部省アリ、文部省アリ、司法省アリ、陸軍省アリ、海軍省アリ、皆宏壯美麗ニシテ、其中ニ家屋ノ制西洋風ニ倣ヒ、觀美ヲ盡セル者アリ、又議院アリ、醫院アリ、電信寮アリ、驛遞寮アリテ、府廳ハ幸橋ノ内ニアリ、府内ヲ十一大區ニ分チ、每區又分ツニ小區ノ以テス、市街ハ、古時八百八街ト稱ス、今ハ其數日ニ増ヒ、縦横斷續其中最繁華ナルハ、日本橋、京橋、新橋ナリ、日本橋ハ、東京ノ中央

日本橋之圖
NIHONBASHI



ト稱ス、故ニ四方ノ道程
ヲ算スルモノ皆此處ヨ
リ始ル、京橋ハ近日石橋
ヲ架シ、新橋ハ既ニ鐵橋
トナリ、其間道路ヲ濶ク
シ、新ニ煉化石ノ家屋ヲ
建テ、車馬ノ路トシ、徒歩
ノ者其左右ヲ往來ス中
央ニハ、樹木ヲ植エ、人馬
絡繹、貿易繁盛、水道地ヲ

繞リ、海ニ注キ、電線空ニ連リテ遠キニ達シ、又
瓦斯燈ヲ設アリ實ニ歐洲繁盛都會ノ如シ、其東
ニ蒸氣車道アリテ、常ニ橫濱ニ往來、築地ハ其
東ナル貿易場ニレテ、外國人居留スルモノ多レ
日本橋ノ北ニ萬世橋アリ、花崗石ヲ以テコレヲ
造リ、傍ニ樹木ヲ栽ウ、橋ノ東南ノ柳原ト云フ、舊
堤上ニ柳樹アリ、此頃堤ヲ毀テ、新ニ松杉ノ類ヲ
栽ウ、頗美觀ナリ、兩國橋ハ、其東ニ在リテ長九十
六間、武藏下總ノ間ニ架ス、故ニ此名アリ、古時此
兩國ノ境トス、今ハ中川ヲ界トシ、夏時納涼ノ候遊

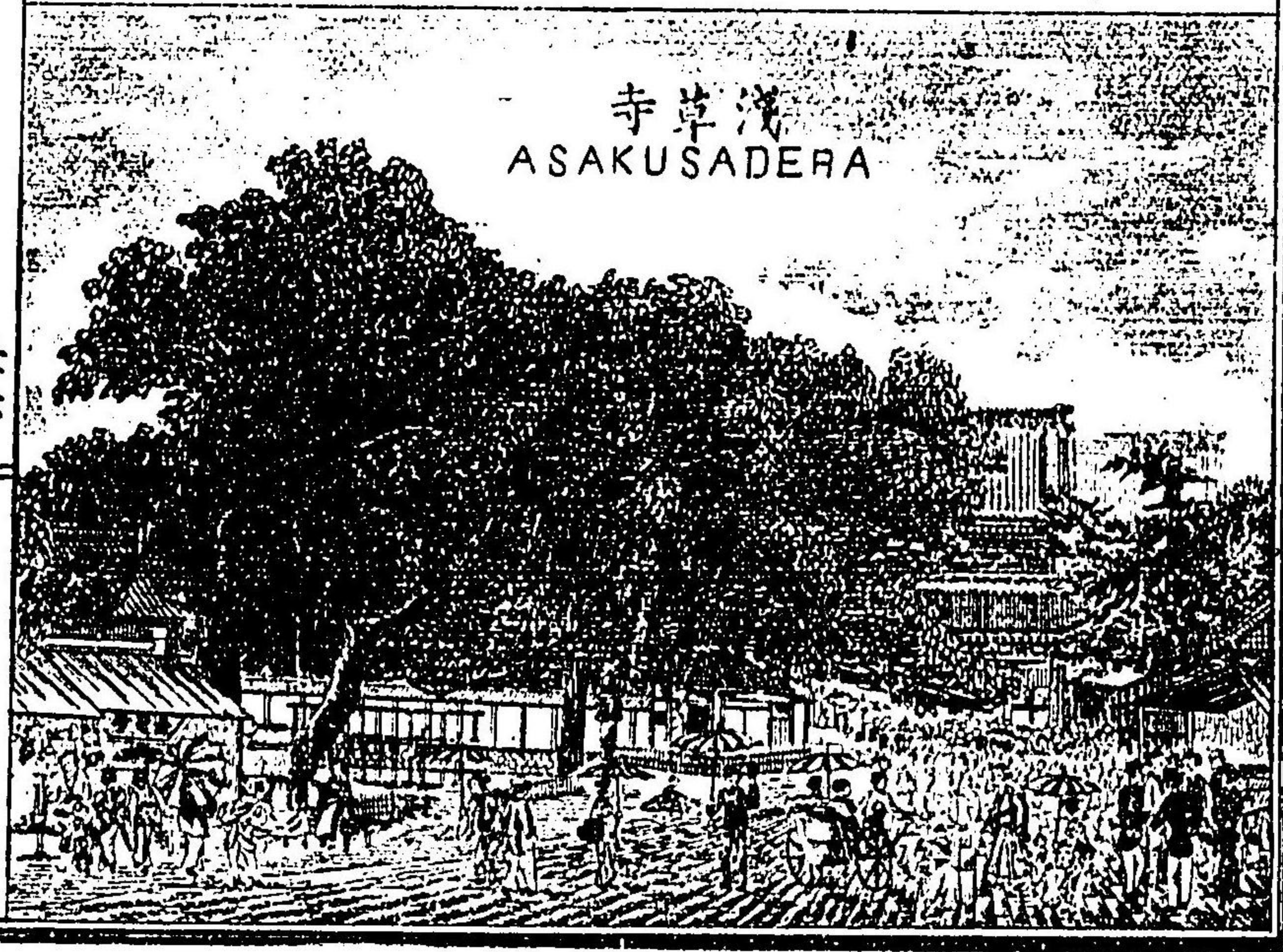


人感ニシテ烟花戲最壯
 觀ナリ、其他市街ハ、淺草、
 下谷、本郷、牛込、四ッ谷、赤
 坂、麴町、芝、本所、深川、如
 キ、ミナト繁華ナリト雖、家
 屋小ニシテ道路狹シ、又
 小川町、番町ノ如キ、華士
 族ノ舊邸、新ニ高家ヲ建
 ツルニ夥シ、府内勝景ノ
 地、其最著名ナルハ、隅田

上野、飛鳥山、淺草寺等ナリ、隅田堤上櫻花ノ時ハ、
 遊人織ルカ如シ、昔時在五中將此地ニ来リテ、和
 歌ノ咏セシヨリ、後人次テ咏スルモノ夥シ、因リ
 テ其名最著ナル、又上野ハ、徳川氏墳墓ノ地ニシ
 テ、高樓大厦相連ナリシカ、戊辰ノ兵火ニ皆烏有
 トナル、然レモ舊時ノ花爛熳トシテ、春候遊人多
 シ、又飛鳥山ハ、一望千里、右ハ遙ニ筑波山ヲ望ミ、
 左ハ遠ク品海ヲ見、古時曠野ノ景況ヲ想像スル
 ニ足ル、淺草ハ、隅田川ノ西畔ニアリテ、観音ノ堂
 最宏壯ナリ、又五層ノ高塔アリ、此観音ハ一寸八

分ノ金像ニシテ古昔隅田川底ヨリ網レ出セル
モノナリト云フ、賽者日ニ絡繹タリ、是ヲ以テ其
地風流地ナラスト雖、勝地ヲ談スレバ必先指ヲ
此地ニ屈ス、其東北ニ劇場アリ、中村座ト云ヒ、村
山座ト云フ、森田座ハ築地ニアリ、從來此三座ノ
外別ニ劇場ナカリシヲ近來河原崎喜昇、中島薩
摩、奥田ノ如キ、皆官許ヲ得テ各處ニ散在ス、妓樓
ハ、吉原ヲ以テ第一トス、三月ノ花、七月ノ燈ノ如
キ、最盛觀ナリレカ、娼妓解放ノ後ハ、其盛舊時ニ
似ス、其他、品川、新宿、千住、板橋ノ如キ、今纔ニ其跡

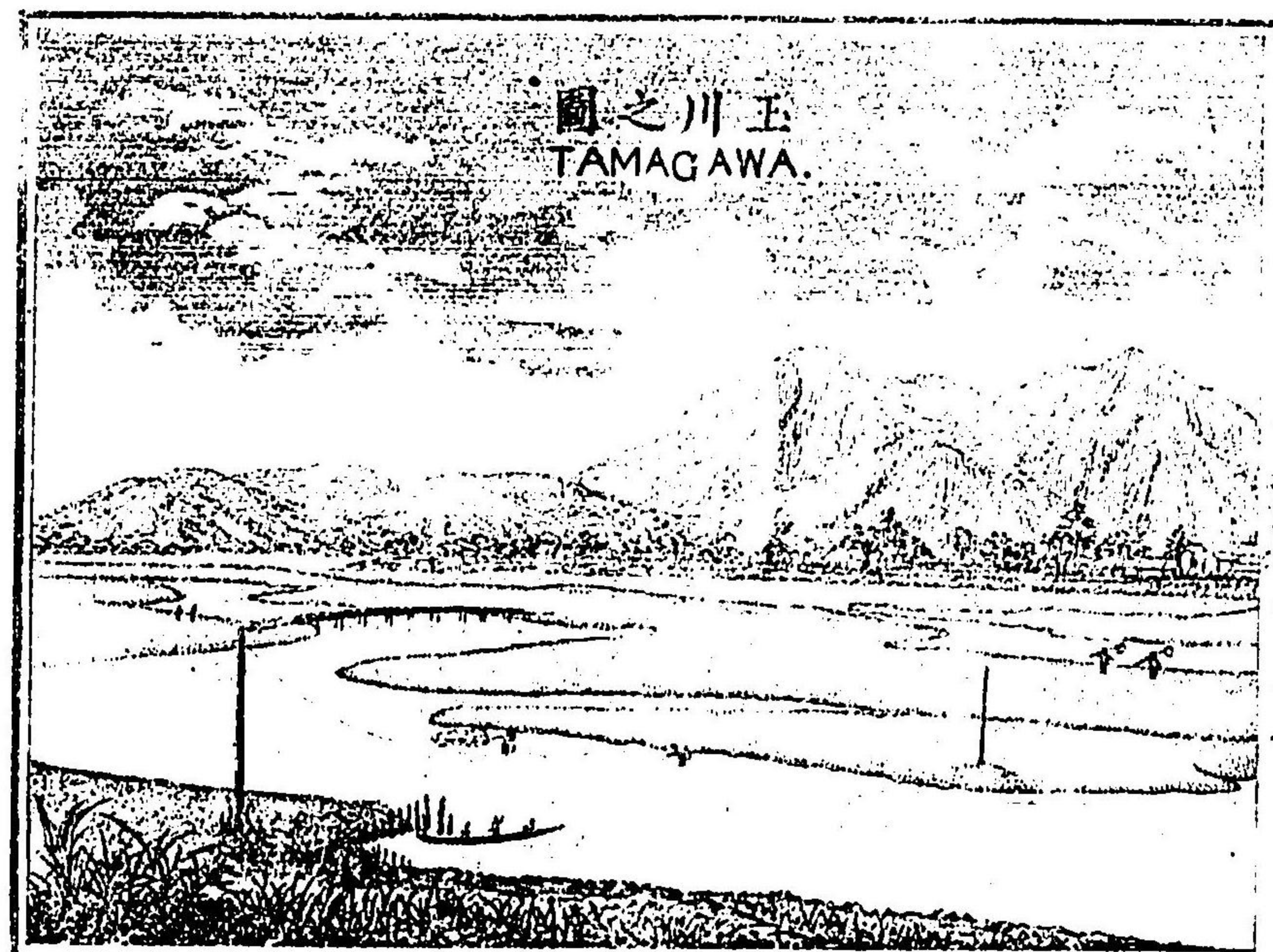
ヲ存スルノミニシテ、燈
影蕭條タリ、凡テ府下ハ、
諸國人ノ集ル所ナレハ、
其風俗氣質一ナラス、從
來ノ江戸子ト稱スルモ
ノハ、輕躁ニシテ遠慮ナ
ク、俠氣アリト雖、膽力ナ
シ、譬ヘハ三人アリ、二人
コレヲ佳トスレハ、其物
ヲ問ハスレテ即コレニ



與スルノ風アリ、又人民佛法ヲ尊信スル者多シ、故ニ府下至ル處寺院アリ、其大ナル者ハ東西本願寺増上寺、淺草寺等ナリ、佛法ニ數派アリ東京人ハ、專日蓮宗ヲ奉ス、故ニ其祖師開扉アル時ハ、鼓聲喧闐トシテ、萬人往キテコレニ賽ス、東京ヨリ四方發程ノ驛ハ、東海道ハ品川中山道ハ、板橋奥州街道ハ、千住、甲州街道ハ、新宿コレヲ四宿ト云フ、又東京府管轄ノ中、郊外勝景ノ地ハ、井ノ頭、小金井等ナリ井ノ頭ハ、神田上水ノ水源ニシテ、秋夜月ヲ賞スルニ宜シク、小金井ハ、玉川上水ノ

涯ニシテ、春日花ニ吟スルニ宜シ、其他目黒、池上、ノ如キ枚舉ニ暇アラズ、又堀ノ内、妙法寺、荒井ノ藥師ノ如キ、勝地ノ寺モ、亦少カラズ、

○神奈川縣ハ、國ノ南西ニアリテ、橘樹、久良岐、都筑、多摩ノ四郡ヲ管轄セリ、別ニ相模ノ三郡ヲ管轄ス、後ニ詳ニス縣廳ハ、久良岐郡横濱ニアリテ縣ノ西ノ驛路ハ、即東海道ニシテ、程ヶ谷、神奈川、川崎ノ三驛アリ、其西八王寺ハ、甲斐ノ驛路ニシテ、頗繁華ナリ、此邊茶、絲、及木綿ヲ産スルノ夥シ、又縣ノ東、金澤ハ、美景ノ地ニシテ、能見堂アリ、遠望頗佳ナリ、堂ノ傍



ニ筆捨松アリ、俗傳ヘテ古昔畫工巨勢金剛ナル者、此地ノ風景ヲ寫サシメトフ欲レテ能ハス、遂ニ筆ヲ擲テシ所ナリト云フ、○熊谷縣ハ國ノ西北ニアリテ、入間、横見、秩父、男衾、大里、榛澤、賀美、幡羅、比企、新座、那賀、兒玉、高麗ノ十三郡ヲ管轄ス、縣

廳ハ熊谷ニアリ、熊谷ハ、中山道ノ驛ニレテ鴻ノ巢、桶川、上尾、大宮、浦和、蕨、七驛ヲ經テ板橋ニ到ル、其西川越城ハ、舊松平氏ノ居リシ所ナリ、舟楫ノ便アルヲ以テ、秩父、比企、其他各地ノ物産、皆此ニ輻輳ス、秩父郡ハ、山間ニ在リテ、繅及烟草等ノ産ス、秩父絹ノ名、諸國ニ著ル、其他各郡膏腴ノ田多シ、○埼玉縣ハ、國ノ北東ニアリテ、埼玉、足立ノ二郡ヲ管轄シ、下總ノ葛飾郡ニ接ス、縣廳ハ、埼玉郡岩槻ニアリ、岩槻ハ、舊大岡氏ノ居城ナリ、縣ノ東驛路アリ、即奥州ノ官道ニレテ、幸手、杉戸、大澤、越

ヶ谷、草加ノ六驛ヲ經テ千住ニ到ル、此邊土地膏
腴ニシテ五穀豐饒ナリ、大澤驛ノ傍ニ桃林アリ、
花時ハ、文人墨客踵ヲ接レテ到ル、頗ル美觀ナリ、
神社

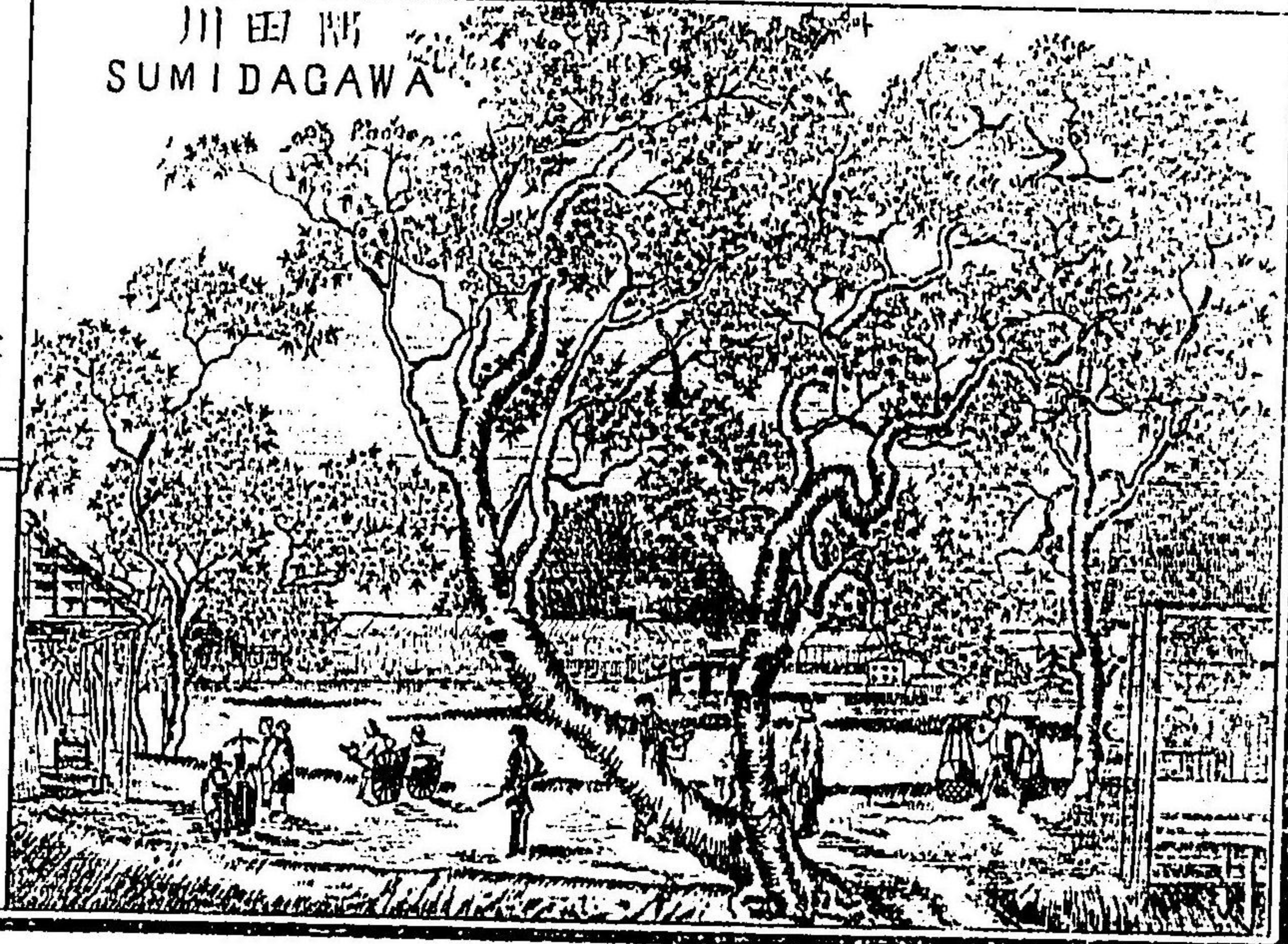
氷川神社ハ、官幣大社ノ一ニシテ、足立郡大宮驛
ニアリ、古昔日本武尊東征ノ時、素盞烏尊ヲ祭リ
シ所ナリト云ヘリ、

山川

武甲山アリ、三峰山アリ、皆國ノ西方、秩父郡ニア
リテ、山脈甲斐信濃ニ連ル、高峻ナラスト雖、山勢

頗險ナリ、又西南ニ小佛
嶺アリ、甲斐ノ驛路ニシ
テ武藏相模ノ國境ナリ、
其山脈秩父山ヨリ来ル、
○隅田川ハ、其源ヲ秩父
郡ノ真澤峰ノ下ヨリ發
シ中津川佐野山川等ノ
諸川ト合流ス、コレヲ荒
川ト云フ、流シテ比企郡
ノ本宿ニ至リ、入間川押

川田間 SUMIDAGAWA



邊川ノ二流ト合シ、入間、押邊ノ二川ハ、其源亦秩父郡ヨリ發ス、左右ニ曲折シテ東ニ向ヒ、折レテ又南ニ流ル、コレヲ隅田川ト云フ、佃島ニ至リテ品海ニ入ル、又綾瀨川ハ、其源熊谷驛ノ傍ヨリ發シ、廣瀨、石原ノ兩邑ニ至リ荒川ノ分流ト合シ、流レテ足立郡ニ來リ、分レテ兩派トナリ、一ハ隅田川ニ入リ、一ハ中川ニ入ル、中川ハ、利根川ノ支流ニシテ、埼玉郡ノ下真名坂ニ至リ、亦分レテ兩派トナリ、一ハ粕壁ヲ過キ、新宿ニ至リ、一ハ岩槻ヲ繞リ、綾瀨川ト合ス、二流共ニ流レテ品海ニ入ル、玉川ハ其源ヲ甲斐ノ

都留郡丹波山ヨリ發シ、同郡船越、村山、及小菅、尾屋峰、水根澤等ノ諸流ト合シ、秩父郡ニ至リ、日原川、大丹波川、平溝川ト會シ、青海ノ南ヲ過キ、羽村ニ至リ、六郷川トナリ海ニ入ル、其分流ハ、小金井、代々木等ヲ經テ府内四ツ谷ニ來リ、縱横地下ヲ繞リ、府ノ南方家々ノ飲ニ供シ、流レテ海ニ入ル、神田上水ハ、又其分流ニシテ、井ノ頭ヨリ發スル水ヲ最トス、流レテ府内關口ヲ過キ、地下ヲ繞リ、府ノ北方戸々ノ飲ニ供ス、遂ニ亦海ニ入ル、其他小流數條アリト雖、其源甚遠カラス、

港

國ノ東南ニ横濱港アリ、品川港アリ、横濱港ハ、外國貿易ノ第一場ニレテ、十餘年前、初メテ開港ス、當時亞英人ノ此ニ來ルヤ、葭蘆ヲ刈リ、洲渚ニ傍ヒテ、居館ヲ建テレカ、其後商家モ隨ヒテ建設シ、方今ニ到リテハ、我國第一ノ繁盛埔頭トナリ、内地ノ貨物皆集リ、海外ノ商船悉來ル、外國通信ノ國々ハ、亞米利加合衆國、英吉利、佛蘭西、魯西亞、荷蘭、葡萄牙、白耳義、伊太利、西班牙、瑞西、丁抹、日耳曼、瑞典、奧地利、布哇、支那ナリ、輸出ノ產物ハ、糸、茶、漆

器ノ類、輸入品ハ、羅紗其他毛布ノ類ヲ最トス、品川港ハ、内地ノ買船常ニ輻輳レテ、帆檣林ノ如シ、我軍艦ハ、平常皆此ニ繫ケリ、然レモ水淺クシテ、舟岸ニ近ツクコト能ハス、港内砲臺數座アリ、又小島アリ、佃島ト云ヒ、石川島ト云フ、佃島ハ、周廻六町二十六間半、石川島ハ、周廻十一町七間半、此ニ造船場アリ、

温泉

温泉ハ、甲州ノ境、小河内ニアリ、地僻ニシテ遊人稀ナリ、

産物

産物ハ、五穀、百果、茶、糸、烟葉ノ類、又淺草、海苔、岩槻葱ノ類、紫漆ハ、江戸紫ト稱シ、色最鮮ナリ、製作品ハ、錦繪、漆器、蒔繪、金銀箔、縫箔、象牙細工、鼈甲細工、玉細工、團扇、烟草入、煉化石ノ類、又太物織、川越平、索麵、和唐紙、形紙、綿、苧麻ノ類ナリ、魚類ハ、鰯魚、海鼠、又蝦、蛤、蛎、牡蠣、鱧、鱒等ナリ、

日本地理全誌卷之一終

